

体づくり運動教材としての平均台運動の指導法序説
—グーツムーツの平均台運動に関する教科内容学研究:
教科教育と教科専門(体育史)との融合—

A teaching material of 'karada tsukuri undo' for the lessons of physical education based on the 'Balkengehen' of GutsMuths' practice

榑原 浩 晃

田 端 真 弓

伊 藤 エ ミ

Hiroaki SAKAKIBARA

Mayumi TABATA

Emi ITO

(福岡教育大学保健体育講座) (大分大学教育福祉科学部) (春日市立白水小学校)

(平成25年9月27日受理)

要 約

本研究では、グーツムーツが指導した「平均台の上で2人の児童がすれ違う運動」について検討した。この運動は、もともとは実用術であったが、体育授業の体づくり運動教材で指導する際には誰でも簡単にできる運動方法とわかりやすい指導方法(言葉かけ等)が必要である。当時の運動の再現が、言語活動を重視した小学校体育科の教材として(特に体づくり運動教材として)の可能性をも秘めている。また、本研究は近代ドイツ体育に関する教科内容学研究として、新たな着想として教科教育と教科専門(体育史)とを融合した研究着想によって、教育実践と教材開発を進めることにも意義がある。

キーワード: グーツムーツ, 近代ドイツ体育, 教科教育, 教科専門, 教材作成

I. 研究の目的と方法

本研究の目的は、近代ドイツ体育の最初の体育教師であったグーツムーツ(Johann Christoph Friedrich GutsMuths, 1759-1839)がシュネッペンタールの汎愛学校で指導を行った体操内容の再現(平均台運動「平均台上を移動し、2人の児童がすれ違う運動」(*Balkengehen*))を試み、その体づくり運動教材への発展可能性を探ることである。グーツムーツは、封建社会から近代市民社会の移行期の1790年代のドイツで身体教育によって人間の身体や身体的資質の発達を完成させ、全人(身体的・人間的)を形成する教育的営みとして、体育授業(Gymnastik)を重視した。グーツムーツは多岐に渡って様々な運動を実践し、その運動の1つには、平均台運動も含まれていた。平均台運動は、当時小川や沢にかけられた丸太橋などの制限された場所を渡ったりするための実用術として体育授業の内容としてとり入れられ、その中には「平均台の上で2人の児童がすれ違う運動」も含まれていた。しかしその運動方法について詳細な資料が少ないものの、シュネッペンタールのグーツムーツ記念館が作成したVTR映像においても、この運動の成功例(運動方法の実際)が複数例収録されていた。(Harald Kliks, *GutsMuths — Wegbereiter des Sports: Ein Dokumentarfilm von Dieter Raue*, Neue GutsMuths-Gedächtnishalle Schnepfenthal, 2000)

また、この運動はもともとは実用術であったが、体育授業の体づくり運動教材で指導する際には、誰でも簡単にできる運動方法と、わかりやすい指導方法(言葉かけ等)が必要である。当時の運動の再現が、現在言語活動を重要視した小学校体育科の教材として(特に体づくり運動教材として)その可能性をも秘めている。

本研究の教材開発の試みにおいては、グーツムーツ著『祖国の子弟のための体操』(1817年)に含まれる挿絵や、ヤーン・アイゼレン共著『ドイツ体操術』(1816年)における平均台運動の「すれ違いの遊動」における運動方法の記述、そして、当時の体操内容の再現VTR映像をもとに、運動内容の検証を繰り返しながら、「平均台の上で2人の児童がすれ違う運動」についての運動方法を検討した。さらに『小学校学習指導要領解説体育編』をふまえ、体づくり運動教材としての可能性を吟味するために、指導案を作成した。その際には、言語活動の充実を図ることと、教師側の適切な言葉かけや、授業の展開、指導の手立ての工夫を考慮に入れた。この研究では、体づくり運動の教材としての平均台運動をグーツムーツの運動内容から再現し、今後の小学校体育指導に資する教材開発につなげようとする意図がある。

従来体育史の研究は、その対象を歴史研究の事実とその歴史的意味の追究を主たる研究対象としてきた。

しかしながら、本研究では近代ドイツ体育の教科内容学研究として、新たな着想として教科教育と教科専門(体育史)との融合を試みることに研究の意義が見出せよう。

2. 運動方法の検討

当時の体操内容の再現と小学校体育科体づくり運動の教材化のための、運動方法の検討に当たっては、参考資料から運動方法を忠実に再現すること、そして、誰もができる運動方法であることなどの点をふまえて以下のように検討した。まず運動を各局面に分けて分析をする。大きく4つに分け、「出会う」「組み合う」「近づく」「まわる」と設定をする。この運動方法を検討する上で中心となる参考資料が、ヤーン・アイゼレン共著『ドイツ体操術』(1816)にみる平均台運動「すれ違いの遊動」の記述(資料1)およびゲーツムーツ著『祖国の子弟のための体操』(1817年)の平均台運

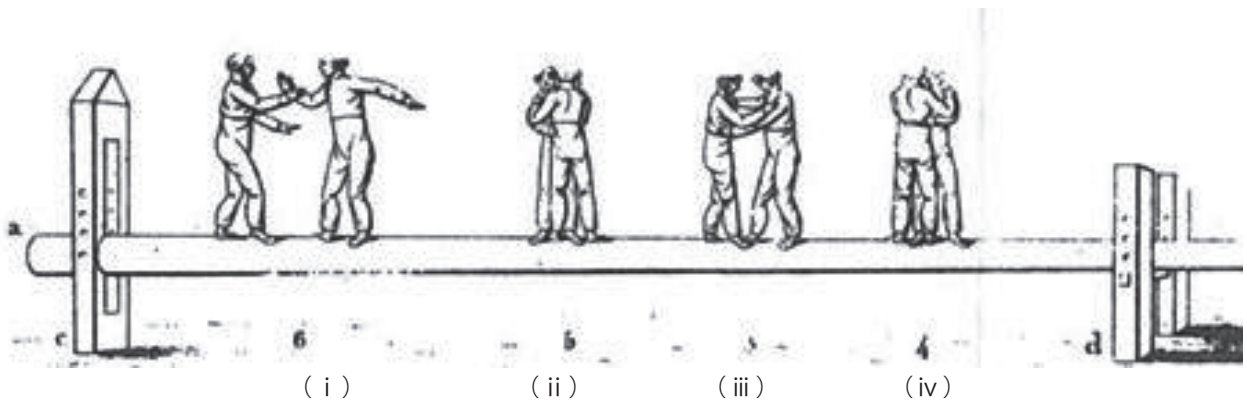
動の挿絵(資料2)である(一部抜粋)。

資料1. 『ドイツ体操術』にみる当該運動の翻訳箇所

「すれ違う際は、やわらかに行う。両者共、右足に対しては右を、左足に対しては左を、しっかりと外側に置き、そして互いに掴まえ、そしてそれから互いに内側に踏み入る。」

(フリードリッヒ・ルーヴィッヒ・ヤーン, エルンスト・アイゼレン共著, 山本徳郎訳(1816)『ドイツ体操術』, 昭和32年, 東京教育大学卒業論文, 筑波大学体育・スポーツ史研究室所蔵, pp.208-209.)

こうした記述からは、1)運動はやわらかに行うこと、2)両者ともまず同じ足を外側に置くこと、3)互いの身体をつかまえること、そして同時に内側に踏み入ることなどの要点が把握できる。資料2からは、各局面のそれぞれの動きの様子を把握することができる。



資料2 平均台上のすれ違う運動の挿絵(ゲーツムーツ著(1817), 『祖国の子弟のための体操』より)

これらの要点を運動方法検討のための各局面にあてはめるとき、まず(i)「出会う」局面では、両者とも同じ足を外側に置くこと、つまり同じ足を前に出して向き合うことがポイントとなる。この時、資料2(i)「出会う」では、両者とも右足を前に出して向き合っている。児童のお互いの手の位置や足の左右の動きについては、資料2を参考として、運動方法の再現と吟味を試みる。

次に、(ii)「組み合う」局面では、資料1によれば互いに掴まえるとある。さらに、資料2の(iii)から、具体的に右手は相手の肩を左手は相手の腰をもち、平均台の上で支え合う。再現VTRでは、お互いの肩だけに手を添えた運動方法もみられたが、資料2と運動方法が一致しないことや、また実験の結果、肩と腰をそれぞれもつことで体の上部と下部を支えることが可能となり、体のバランスがとりやすことが判明した。次に、資料1の最後の記述にある、「互いに内側に踏み入る」とある要点を、ここでは「近づく」局面と「まわる」(仕上げの場面)局面に分けて検討をする。

「近づく」局面では、資料2の(iv)から、まず前足(右足)を相手の足の内側に踏み入れること、つまりお互いに前足を内側に入れ、交差させている。そして2人で、せまい平均台上でバランスをとらなければならないことから、お互いの距離を近く保つことが重要である。またこれらの検証の結果、顔の位置は相手の、向かって右の肩の方に、つまり進行方向の相手の肩に寄せるとバランスがとりやすことが判明した。体の部位のそれぞれのポジションが重要である。

最終局面の(iv)「まわる」(仕上げの場面)局面では、前足(右足)を軸にして反時計回りにゆっくりとまわる。この時、当時の実用術としては、小川に落ちないように慎重に行う必要があったことが想定され、ゆっくりした動きの速さで、正確に行うことを重視する。最後は、2人同時に、後足(左足)を前足(右足)の後ろに回し、完全に平均台上でのすれ違い動作を完了させる。この時、2人同時に動かなければ、せまい平均台の上で一方に重心が偏ってしまい2人でうまくバランスをとることが難しくなる。2人の動きのタイ

ミングが重要である。

グーツムーツ記念博物館の編集した体操内容再現VTRの中には、「平均台をすれ違う運動」の成功例（運動方法）が2種類収録されている。どちらも今回参考とした資料の記述とは、その運動方法が異なっている。また、いずれの運動方法も、実際に児童に指導を行うとなると難しい運動課題であると考えられる。1つ目の運動方法では、2人のうち1人が直立した状態で、もう1人が相手の前を瞬時に越して移動する方法である。2つ目の運動方法では、右足を前に出して向き合い、内側に踏み入れることなく、瞬時に時計回りに入れ違う方法である（今回検討を行った運動方法では、右足を前に出すと反時計回りとなる）。教材としての吟味の過程から、これらの方法ではバランスとタイミングを瞬時にとらなければならないことから、授業時に指導する際にコツや感覚的な運動実施になりやすく、その指導（言葉かけ等）も難しい。このことから、当時の再現としても、体づくり運動の教材としても、今回検討を行った運動方法が適切であるといえる。

3. 指導の実際と展開

今回、グーツムーツの体操内容の再現における「平均台の上で2人の児童がすれ違う運動」の指導に当たっては第3学年体育科体づくり運動多様な動きをつくる運動内容の1つとして取り扱い授業を実施する。運動の難易度が高いことや、さまざまな論理的思考力、仲間との連携を必要とすることから体づくり運動の単元全体のまとめとして位置づけ、この教材を用いる。単元を通して、多様な動きを身につけるとともに、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、仲間と協力し合って楽しく運動に取り組んだりする子どもたちの姿を目指すこととした。そのために、交流活動や協力して学び合う活動を多く設定し学習を進めていくこととした。

こうした「平均台の上で2人の児童がすれ違う運動」を通して、学習指導要領解説（ア）体のバランスをとる運動と（イ）体を移動する運動の指導を行う。本時の目標を次のように設定し、この目標を達成するために以下のような手立てをとる。

本時の目標

- ・ペアで協力をして、平均台の上をすれ違う運動ができる。（運動の技能）
- ・進んで運動に取り組み、最後までやり遂げることができる。（運動への関心・意欲・態度）
- ・運動の行い方や動きのひみつを見つけ、自分の動きに取り入れることができる。（運動についての思考・判断）

本時の手立て

まず、平均台の上を、バランスをとりながら移動する運動は、前時に学習をしているものとし、本時ではこの運動を準備運動として行う。この時、確実にバランスがとれること、安全な着地が行えていることを教師がよく確認をし、指導をしなければならない。そこで、本時のめあてとして「友だちと協力して、平均台の上をすれ違う運動を成こうさせよう」を設定した。

次に、教師がペープサートを用いて本時の活動内容、めあてを提示することで、本時の活動をペープサート中の物語の疑似体験の場としたり、児童の活動意欲や関心を高めさせたりする。また、児童自ら課題を見つけ、最後まで意欲を持って運動に取り組むようにするために、チャレンジタイムを複数回それぞれ設定する。（「本時の学習指導案」参照、伊藤エミ教諭作成）

チャレンジタイム1では、運動方法を全く知らない状態で1組のペアが数分間、「平均台をすれ違う運動」に挑戦する活動を行う。ペープサートの物語同様、落ちれば流れの速い川であること、当時の人は失敗が許されなかったこと、などを強調し児童に試みの活動を行わせる。おそらく、この時確実且つ正確に運動を行うことができるペアは少ないと仮定され、チャレンジタイム2での運動方法を見つける際の活動意欲につながようとする。こととする。

チャレンジタイム2では、チャレンジタイム1で正確にできなかった運動を、VTR映像や学習プリントをもとに、「アドバイスの言葉動き」を探るようにし、それを児童自らの動きに試す活動として行う。見本となる動きを見て自分たちの動きにとり入れたり、運動の行い方を工夫したりすることで、思考力・判断力を培うものとする。その際、運動の場面ごとにチェックポイントと児童どうしのアドバイスの言葉かけを考えさせるようにした。（「学習プリント：必ず成こうする⑤つのポイント」参照、伊藤エミ教諭作成）

運動の場面

【①会う場面】

チェックポイント：足の場所（右足と左足）

「2人とも、_____を前にして立つといいよ。」

【②組み合う場面】

チェックポイント：手の場所

「2人とも、_____をもち合うといいよ。」

【③動かす場面】

チェックポイント：足の動き（左足と右足）

「_____を前に出して、クロスさせるんだよ。」

【④近づく場面】

チェックポイント：2人の近さ

「2人の間のきよりは、_____くらい近づいてね。」

【⑤仕上げの場面】

チェックポイント：顔の動き

「2人とも、顔の場所を_____。」

見つけた「動きのひみつ」を全体で共有した後、チャレンジタイム2では、できるだけ多くの友達と運動に挑戦する活動を行う。この時、運動が成功した相手からたくさんサインをもらったり、教え合ったり励まし合ったりしながら運動を成功させていく児童らの姿を目指そうとする。

最後に、運動が達成したことへの喜びやよさに気づき、次時の活動意欲を喚起させるために、本時のまとめとして、学習プリントの「思ったこと・考えたこと」を記入させる。この時、「○○さんと協力して、最後はできるようになったのでうれしかった。」「今度は反対まわりにも挑戦してみたい。」などのコメント記述は主眼の達成が表現されているとみられる。

Ⅲ. 結論

本研究では、1790年代のドイツでゲーツムーツが行っていた体操内容の再現（平均台運動「平均台の上で2人の児童がすれ違う運動」を目指し、その体づくり運動教材への発展可能性について追究した。

運動方法、指導方法について検証し、授業を実施した。チャレンジタイム1（運動方法をまったく知らない状態で動きを試す）では、予想した通り多くの児童が運動を成功させることができなかった。チャレンジタイム2（見本の動きを見て自分の動きとして試す）では、動きを改善しようとし、お互いに指摘しあったり、声をかけ合いながら、ちょうどいいタイミングを図り合ったりする場面が多く見られた。さらに、何組かの児童のペアが成功する場面がみられた。それらの過程では、お互いに意志の疎通をしながら動きを教え合ったり励まし合ったりする場面がみられ、成功した時にはところどころで歓声があがっていた。

しかしながら、指導方法のポイントとして、この運動の成功のために最も重要な要点は「ゆっくりとすれ違う」ということであろう。日常的な運動の中で、われわれは「すばやく」行う運動に終始しがちである。要点を確認しながら確実にゆっくりと行う運動とそれらによって児童のお互いの声掛けによる言語活動の充実をはかりながら実践できる当該教材は、体づくり運動教材として有効であろう。

（付記：本研究を進めるにあたり、春日市立白水小学校校長福原秀伸先生並びに諸先生方にご理解とご協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。）

【文献】

1) J.C.F.GutsMuths(1793), *Gymnastik für die Jugend*, Schnepfenthal [ゲーツムーツ著, 成田十次

郎訳(1979), 『青少年の体育』, 明治図書]

2) Friedrich Ludwig Jahn und Ernst Eiselen (1816), *Die Deutsche Turnkunst zur Einrichtung der Turnplätze*, Berlin [フリードリッヒ・ルーヴィッヒ・ヤーン, エルンスト・アイゼレン共著, 『ドイツ体操術』, 山本徳郎訳(1957年), 東京教育大学卒業論文, 昭和32年3月, 筑波大学体育史・スポーツ人類学研究室

3) J.C.F.GutsMuths(1817), *Turnbuch für die Söhne des Vaterlandes*, Frankfurt am Mayn [ゲーツムーツ著(1817), 『祖国の子弟のための体操』]

4) 稲垣正浩編(1991), 『「先生なぜですか」器械運動編 とび箱ってだれが考えたの?』, 大修館書店

5) Harald Klix(2000), *GutsMuths —Wegbereiter des Sports: Ein Dokumentarfilm von Dieter Raue*, Neue GutsMuths-Gedächtnishalle Schnepfenthal, (ドイツ:ゲーツムーツ新記念館作成DVD, 『ゲーツムーツ:スポーツの開拓者』シュネッペンター, 2000年)

6) 文部科学省(2008年), 『小学校学習指導要領解説体育編』

第3学年2組体育科学学習指導案

指導者 伊藤 エミ

○ 平成25年9月13日（金） 第4校時 体育館

1 単元名 体づくり運動 (3/3)

2 主眼




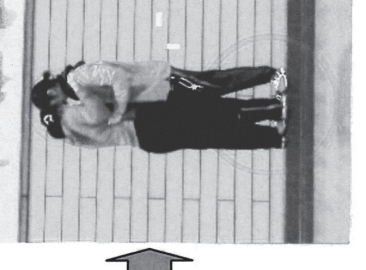
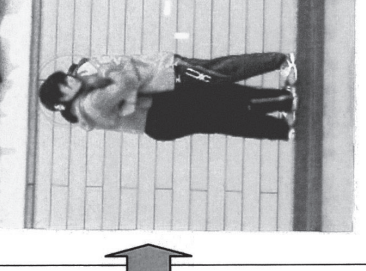
- 積極的に、運動のポイントを見つけようとし、友達と教え合って運動をすることができる。
- 平均台の上でバランスをとりながら、歩いたり、体を方向回転させたりし、ペアですれ違うことができる。

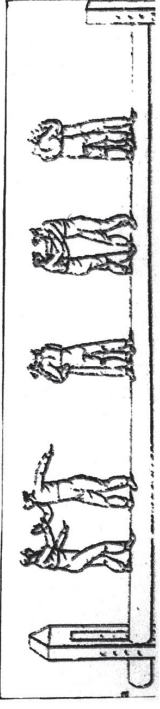
3 本時指導過程

	学習活動・内容	○教師の手立て	配時
導入	1 前時の学習を想起し、本時のめあての確認をする。 (1) 本時の動きにつながる運動をする。 ・ 平均台渡り（前歩き・後歩き） ・ 平均台の上でのバランス（バランス・方向回転） (2) 本時の活動内容とめあてをつかむ。 ・ ペープサートを見る。 ・ めあてを考える。	○ 事前に、学習のきまりを全体で確認する。 ○ 本時の運動（平均台の上をすれ違う運動）を行うための、局面ごとに必要な動きを準備運動で取り上げる。 ○ ペープサートを見て、本時の活動を把握することで、活動意欲を高めることができるようにする。	10分
展開	2 運動課題に取り組む。 (1) チャレンジタイム1 ・ 運動のポイントを知らない状態で運動に挑戦する。 (2) 運動のポイントを見つけ、グループで交流する。 ・ チェックポイントを参考にしながら、運動のポイントを学習プリントにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> [めあて] 友だちと協力して、平均台の上をすれ違う運動を成功させよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> [チェックポイント] ①足の場所（右足と左足） ②手の場所 ③足の動き ④顔の場所 ⑤2人の近さ </div>	○ 見本映像を見ることで、具体的な動きのイメージをもつことができるようにする。 ○ 「うまくできない」経験から、次の活動への意欲を高めることができるようにする。 ○ 運動を局面で分けた写真を提示し、チェックポイントから、運動の行い方を見つけることができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ① 右足を前に出しているよ。 ② 相手の肩をもっているね。 ③ 右足をクロスさせているね。 ④ 顔の場所を入れ替えているよ。 ⑤ 2人の距離は、ぴったりだね。 </div>	25分
終末	(3) チャレンジタイム2 ・ グループで教え合いながら、運動を成功させる。 3 本時のまとめを行う。 ・ 学習プリントに本時の発見・がんばり・チャレンジを書く。	○ 運動のポイントごとに、アドバイスの仕方を考えることで、自分の動きに取り入れることができるようにする。 ○ 本時のがんばりを称賛したり、次回の活動内容を提示したりし、次時への意欲を高めさせる。	5分

めあて 友だちと協力して、平均台の上をすれ違う運動を成こさせよう。

体づくり運動③ かならず！成こする⑥つのポイント！！

<p>運動の場面</p>	<p>【①出会う場面】</p> 	<p>【②組み合う場面】</p> 	<p>【③動かす場面】</p> 	<p>【④近づく場面】</p> 	<p>【⑤仕上げの場面】</p> 
<p>チェックポイント</p>	<p>① 足の場所 (右足と左足)</p>	<p>② 手の場所</p>	<p>③ 足の動き (右足と左足)</p>	<p>④ 2人の近さ</p>	<p>⑤ 顔の動き</p>
<p>アドバイスの言葉</p>	<p>○ 2人とも、 前を出して立つ といいよ。</p>	<p>○ 2人とも、 をもち 合うといいよ。</p>	<p>○ を 前に出して、 クロスさせる んだよ。</p>	<p>○ 2人間の きよりは、 くらい 近づいてね。</p>	<p>○ 2人とも、顔 の場所を 。</p>



運動のポイントアドバイスをしよう！